

## 令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

### ワークショップ実施計画書

制作団体名	一般社団法人演劇集団ワンダーランド
公演団体名	一般社団法人演劇集団ワンダーランド

内容
<p>ワークショップで一番大事なことは、「見る」「聞く」「感じる」つまり、五感を鋭くする訓練によって、想像力、創造力、感受性を豊かにし、コミュニケーション能力を発達させ、社会性が身につくようにすることです。児童生徒には「踊る」「影絵」「歌う」という三つのワークショップを体験していただきます。言葉にメロディーが付くことで記憶が強化されます。言語情報だけより、それに身振り手振りの情報が加わることで、伝達力が高まります。自分の手足を動かして、「言葉のない」からくり人形を表現すること、自分なりに想像し影絵で表現することで達成感も感じるすることができます。言語のみならず、非言語コミュニケーションの伝達力を育む演劇です。なお、ワークショップで稽古した芝居のシーンは次の3か所です。登場人物たちがからくり人形として登場する。儀右衛門が発明するシーンを影絵劇で表現する。フィナーレは全員で歌を歌う。</p> <p>ワークショップは、2コマの時間を使用いたします（小学校45分×2コマ、中学校50分×2コマ）</p> <p>■1コマ目は、全校児童・生徒が参加です。はじめにお芝居の内容などをプロジェクターを使用して、説明。そのあと全校児童・生徒で、フィナーレの曲を歌います。</p> <p>■2コマ目は、6名の児童（3名影絵・からくり人形の踊り、3名台詞）の出演する箇所の稽古を予定しています。</p>

タイムスケジュール（標準）
<p>ワークショップの始まる1時間前に到着。終了後1時間打ち合わせ。</p> <p>■1時間…「体育館の下見」、先生との打ち合わせ・確認事項の確認</p> <p>■45～50分…全校児童・生徒参加「お芝居の説明、フィナーレで合唱する歌の練習」</p> <p>■学校の時間に合わせて休憩</p> <p>■45～50分…お芝居に出演する6名の児童生徒、または最上級学年のみ全員参加「影絵遊び、演技。からくり人形の演技・踊り。台詞の練習」</p> <p>■60分…片付け後・先生よりワークショップ完了確認書をいただく。</p>

派遣者数
3名

学校における事前指導
<p>フィナーレで合唱するうたのCDと楽譜を、先に学校へ郵送申し上げます。</p> <p>児童生徒に、前もって流していただくようお願いする。マイク2本、延長コード1本をご用意いただく。2コマ目のお芝居に出演する6名の生徒を決めておいていただく。</p> <p>体育館の配電盤の位置を確認して、扉が開くようにご確認をお願いする予定です。</p>

# 令和2年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

## 本公演実施計画書

制作団体名	一般社団法人演劇集団ワンダーランド
公演団体名	一般社団法人演劇集団ワンダーランド

<b>演目</b>
<p>日本は、明治以降、技術力で国力を高めてきた国家です。資源のない国、日本を、技術の力で日本の未来を切り開こうとした、東洋のエジソンの異名を持つ東芝の創立者「田中久重」の評伝劇です。</p> <p>からくり人形の発明の面白さに魅了され、果ては佐賀藩、久留米藩の蒸気船、明治時代には、万年時計などさまざまな発明をしてきました。</p> <p>本作品は、その発明の根源「人の想像力・創造する喜び」、それに加え何事も不可能なことではないと思います諦めない精神をもつことで、現在の日本の技術があることなど、人間ドラマを通じて、なぜ日本の技術が発展していったか、どういう信念を持ち行動したかを感じてもらえる作品です。子供達に発想力や行動力の大切さを伝えます。本作品は実話を下敷きにしたフィクションです。</p>

<b>派遣者数</b>
出演者 14 人、スタッフ 6~7 人

<b>タイムスケジュール（標準）</b>
午前 8:00~11:00 搬入・仕込み、11:00~12:00 場当り（内 30 分ワークショップ） 12:45 児童生徒 6 名小屋入り、12:50 開場、13:00 開演/14:50 終演 15:05~17:30 パラシ・搬出・帰路。 ※基本は上記。学校の事情により、多少前後する。 ※午前公演の学校は、前日仕込み・10:10 開演を基本とする。

<b>実施校への協力依頼人員</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・フィナーレで合唱する全校児童生徒に協力依頼。</li><li>・お芝居の途中に参加いただく「からくり人形の踊り・模倣」「影絵での演技」3名と、「台詞を話す」3名の6名を学校側でご推薦いただく。</li><li>・出演可能な校長先生。</li></ul>

## 演目解説

近年日本経済は、大きな目で見ると沈滞傾向にあります。資源のない国の日本の発展には、技術が必須です。明治以降、諦めないという精神が宿っている日本は、世界に誇れる技術が発展しました。その精神の根源は、「想像力・創造する喜び」であり、その信念により新しい時代が生まれました。

また登場人物の久留米かすりの創設者「井上傳」をはじめ、他登場人物の一人ひとりに夢があり、悩みがあり、友情があり、挫折があります。「他人と強調して思いやる心」「感動するところ」「悲しみを分かち合える心」「豊かな人間性」などの人間として成長していく大変重要な「生きる力」を育む力のある作品です。子供たちは、技術力が日経済再生のカギを握ることに気づきを得ることでしょう。

本作品は、歌、踊り、影絵、最新の映像技術を使い、優れた総合芸術の体験の機会を提供します。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

舞台上上がる6名は、からくり人形の踊り・影絵（言葉を使わないコミュニケーション）、台詞を話し芝居をする箇所で開催していただきます。

出演する児童生徒と、客席にいる児童生徒は、客観的に見てリアクションをすることにより、双方のコミュニケーションを図る試みです。

全校児童生徒の参加でフィナーレを合唱します。お芝居を観終わった後の全員での合唱では、舞台上上がっている児童生徒だけでなく、客席にいるすべての人が「参加者」であり「主体者」である感覚を味わうことのできる演出形態を考えています。

今観終わったばかりのお芝居の内容を歌にしたフィナーレの合唱曲です。言葉にメロディを持った音声の伝達力に気づきを得るでしょう。

## 児童生徒とのふれあい

希望があれば、本番時の昼食を一緒に食べ（6名の出演児童生徒）、共演する役者とのコミュニケーションを図ることを予定しておりますが、新型コロナウイルスの感染拡大の状況により控えるなど変更いたします。

また、仕込・撤去時の子供達の協力をできる範囲で参加いただき、観るだけでなく芝居作りの裏作業も体験し、舞台芸術の創造を体験し、発想力・コミュニケーション力を養いたいと思います。